

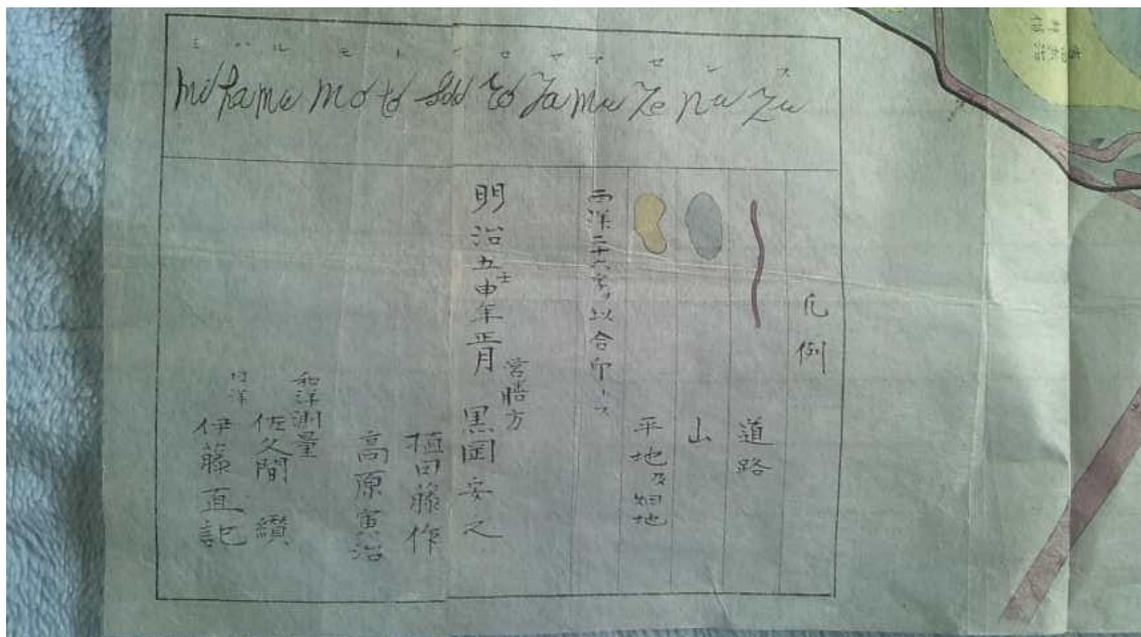
明治4年三春県絵図方測量 三春町と三春城

一算術教授佐久間續 600余の野帳、測量絵図一

しろはく 古地図と城の博物館 富原文庫

代表 富原道晴

1 2003年膨大な量の村絵図を発見した。その詳細は日本古地図学会で発表し、調査に三春町も来場された。公開した理由はこの膨大な測量作業を実施した責任者である佐久間續の名が後世に伝わっていない。明治5年と言う時期の測量事業の記録や、わずか3か月しか存在しなかった三春県の記録もほとんど残されていなかった為である。しかしながら、10年余り経過した今日でも、その状況はほとんど変わっていない。地図情報の連載課題は城と地図であって、地図ではないため、掲載を見合わせていた。そうしたところ、なんと2009年フランスで発見し、昨年紹介した明治政府陸軍省築造局城郭存廃絵図に一目見て三春城と分る絵図が含まれていた。その絵図には時代を反映して、珍しくローマ字で「miharumotosiroyamazenuzu」カタカナで「ミハルモトシロヤマゼンス」とあり、「明治5年壬申正月宮繕方黒岡安之、植田藤作、高原寅治、和洋測量佐久間續、同洋伊藤直記」と明記されていた。三春藩から三春県に引き継がれた測量記録は明治5年明治政府陸軍省にまで報告されていたのです。ここに富原文庫所蔵の128枚の陸軍省城絵図と600枚に及ぶ三春県の測量記録が結びつきました。今回は三春町、三春城を中心に三春県絵図方の測量事業を報告します。



2 陸軍省の城絵図は先に詳細を報告しましたが、大きいものは巾4m近くあり、細密図から略図まで、近世城郭から中世城郭、幕末の台場まで、正保城絵図を凌ぐ規模で実施された日本最大の国営城郭調査です。ただ、個々の城郭図が廃城前の全国の城郭の現状図とい

う基本図であるにもかかわらず、今のところ、高槻城と西尾城を市教育委員会が調査に來られたにとどまり、個々の絵図の解析は是からです。三春城についても、これまで詳細の報告をしていません。絵図は薄葉紙に描かれ、37 X 48 cmと陸軍省城絵図にしては小ぶりです。ただ描画内容は詳細で、明治5年の城跡の状況を詳細に知ることが出来ます。本丸及び東西の虎口城門に至る登山道は領主手許普請と記され、本丸周辺の傾斜地は秋田弥十郎拝借とあります。秋田弥十郎は三春藩主秋田家由来の人物と思われます。本丸は上下2段に別れ、上段522歩半はすでに石田、湊、鎌田氏の拝借地となり、本丸には東西の城門が残存し、元番士詰所長屋、土蔵3基、物置、が見られます。古絵図にみる3階櫓、隅櫓、土塀、石垣はすでに撤去されています。この時代本丸は秋田家が所有し、土蔵等の管理を置いていたものと思われます。二の丸、三の丸はすべて拝借となり、拝借人の人名が記されています。この時代江戸詰藩士の帰藩があり、全国の城跡がこれらの藩士の居宅や農地として開墾され、城郭は毀されていきました。陸軍省城絵図はその現状を知りうる唯一の絵図群と言えます。



3 それでは、逆に三春県絵図方測量事業を見、三春城を検討したい。測量された絵図には三春県絵図方、または、絵図方と署名され、実測に伴う分間図、野帳、へら引きされた下図、仕上げられた正式絵図としての縮図があり、測量範囲は三春周辺を含む、120町村に及んでいる。しかも、測量は明治2年の三春藩時代から、仕上げは明治4年三春県となっていた。三春城は福島県中央に位置する秋田氏五万五千石の城下町である。この測量事業の背景を探るべく、三春町を探索したが、三春県絵図方の存在はまったく初見であった。明治元年戊辰戦争、7月26日西軍17藩三春無血開城、8月13日本領安堵、10月26日西軍引き上げ、10月28日藩主上京、12月18日帰着、明治2年3月3日版籍奉還、といった激動の時代を背景に、明治4年7月14日廃藩置県によって設置された、三春県も同年

11月2日には平県に編入、11月29日には磐前県に変更と、明治9年8月21日福島県となる、めまぐるしい変遷を繰り返した。そのため、絵図方も然ることながら、三春県の存在そのものが、わずか3ヶ月あまりであり、三春県の資料もほとんど残存していない状況であった。本絵図群は、三春県の測量事業の記録としての測量者、組織、年月日等が明確に記録され、三春県や明治初期測量事業の解明につながる要素が多く含まれている。明治2年佐久間纘が藩庁から算術教授を拝命し、その後、磐前県、若松県、福島県においては、県事業として測量が実施されていた。

4 測量主体について

本絵図作成の主体は紛れもなく、三春県絵図方であり、絵図方、または、三春県絵図方と記された絵図、絵図袋、野帳は、次のようになる。

「三春測量方、測量方」 2件 明治2年横道村野帳

「三春絵図掛」 1件 明治2年2月29日 北成田村野帳

「絵図係」 1件 明治2年4月野帳 戸屋耕地

「絵図方」 75件 明治2年5月東内地耕地、屋戸耕地野帳から、明治4年12月まで、

「縮図方」 1件 明治3年8月3日里程

「三春県絵図方」 13件 明治4年8月から11月のみ。

「三春県航海測量方」 1件 明治4年横道全図

「三春県絵図方洋算」 2件 山根村全図、明治4年8月岩井澤村全図

「三春県測量方」 1件 明治4年8月堀田村全図

「地理課絵図係」 1件 明治20年4月四在家耕地分間帳

組織名として記された10部門を編年別に眺めてみたが、ここから見れる事は明治2年三春藩においてすでに、測量方があり、絵図掛、絵図係、を経て、絵図方として存在したこと。それは三春県絵図方として引き継がれたこと。そして、明治9年以降は福島県の組織として、20年に地理課絵図係となったこと、この間明治8年地租改正地籍図測量があったことを忘れてはならない。本絵図の測量事業は上記から三春藩測量方、絵図方から始まり、三春県絵図方において完成した足掛け3年の事業と考えられる。この中で、三春県絵図方という組織の存在、又、測量方、航海測量方についても、今回初見かと思われる。

5 測量技術者 教授佐久間纘

本測量事業が三春県絵図方洋算教授 佐久間纘（つづき）を中心として、助教授 伊藤直幸（直記）とその門人によって成し遂げられたことは、絵図、野帳に記録された測量技術者の記録から明らかである。記録に残されただけで、測量技術者は延べ150人に及ぶ。これらの人々は、明治2年三春藩講所や文武局関係者であったと思われる。

教授佐久間纘は三春町史「佐久間纘一代記」によると文政2年1819年生まれ、二本松藩の和算家渡辺一に最上流和算を学び、師の没後、全国歴訪し、測量術を山形の高橋吉右衛門に学んだ。嘉永2年五千石領役所絵図掛に、又、万延元年1860年三春藩士となり、明治2年藩庁より算術教授を拝命、5年まで努めたとある。本測量事業はこれからも藩事業

と裏付けられたことになる。その後、明治7年磐前県、8年新政府地理寮御用、国図編纂のため宮城県、福島県出張、明治9年和算塾「庸軒塾」を開設、明治29年78歳で生涯を閉じるまでに、著書算法300冊、門人2000人を数えるという。

今回の大規模な測量事業は藩庁の指示により、佐久間績と伊藤直記という卓越した技術者によって成し遂げられた。

6 三春城及び三春町関連絵図

古図

- 1 三春城下町絵図 元治元甲子歳八月吉日 佐々木四郎兵衛高恒 撰

三春御城地形高（里程）77項目 細密彩色絵図 148 x 139 cm 古図

幕末の三春城下町絵図であり、城下武家屋敷には武士の名前と屋敷の坪数、三春御城下地形高として、御本城より追手迄45間等77か所の里程、本丸には3重櫓、隅櫓、城門2基、倉2基、井戸が表示され、明治5年図との比較でその変遷を知ることが出来る。又、登城路は本丸城門以外に各1基の城門が設けられ2重防衛となっている。

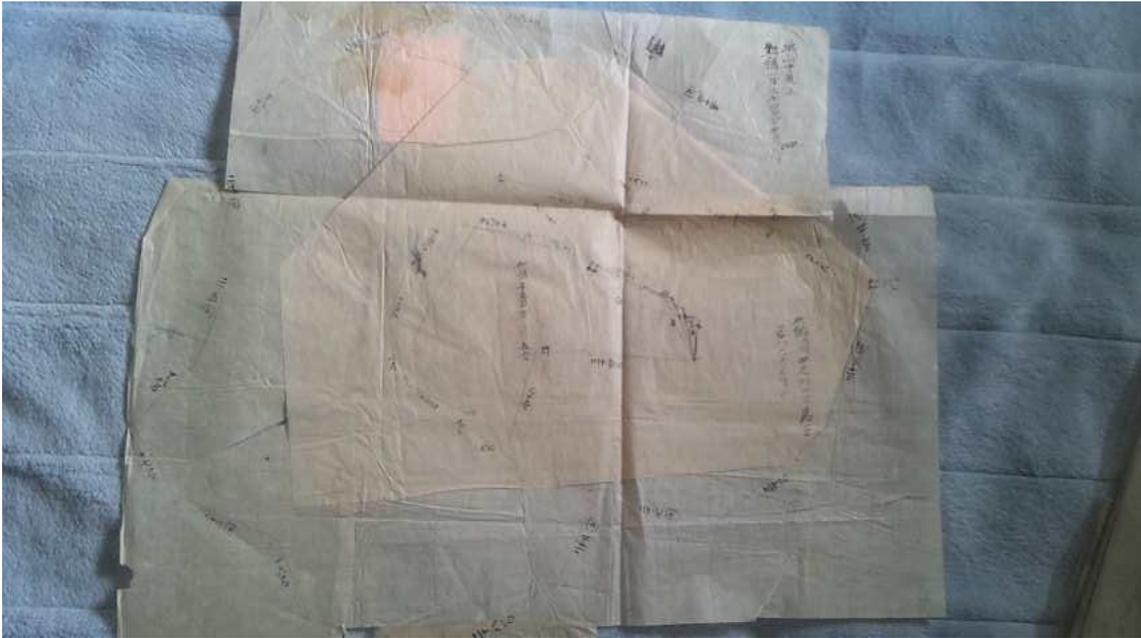


城山周辺部分

城山図

- 2 城山実測図本丸周辺 城山中道之上惣積12444歩 50 x 54 cm

1分1間 1間6尺3寸 本丸 1541歩5合



元城山官地縮図 凡例のみ 27 x 38 cm

二之丸跡 (実測図) 墨書き朱入り 39 x 28 cm

4 (三春城山周辺絵図) 細密彩色絵図 明治 54 x 54 cm 方位

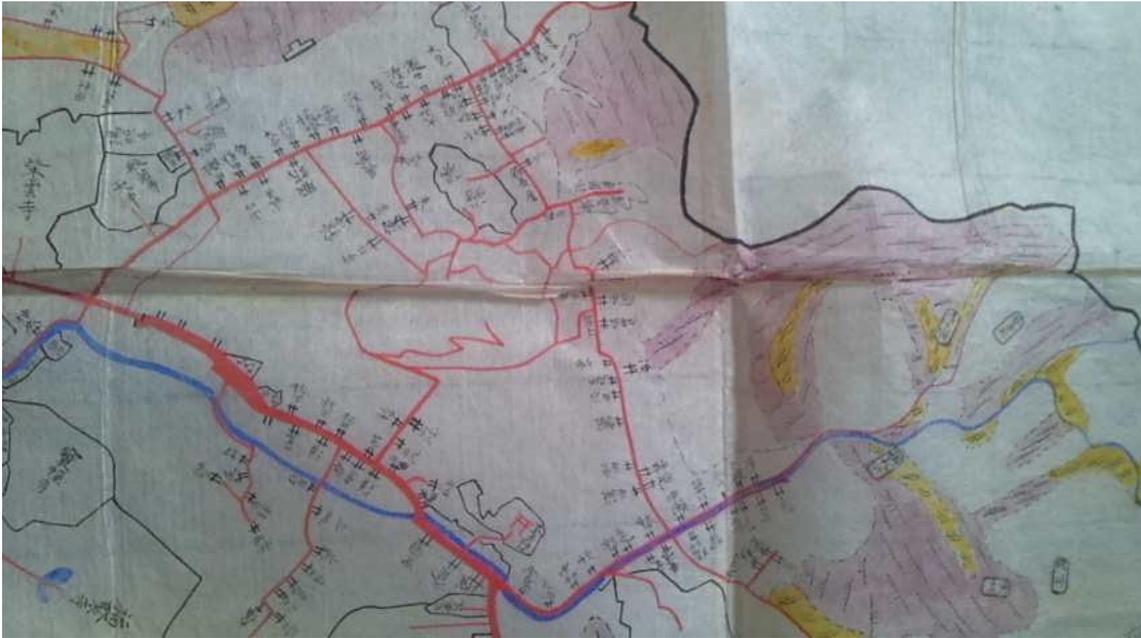
元本城之地 (石田、湊、鎌田借地)、元県庁



町絵図

3 三春町村縮図 彩色絵図 明治4年 1分10間 1間6尺 79 x 74 cm

細密図、城山周辺武家屋敷、通路詳細、



城山周辺部

- 5 三春町村縮図 彩色絵図 1分10間 1間6尺 下図 76 x 91 cm 方位格子凡例
- 6 (三春町村下図) 墨朱青 下図 針穴格子 72 x 57 cm
- 8 (三春町村正図) 細密彩色絵図 東西南北4分割図 方位 82用紙繋ぎ
 - 中心部(南) 巾133 cm高148 cm、東部 巾85 cm高135 cm
 - 西部 巾116 cm 高148 cm、北部 巾195 cm高122 cm
 - 全体寸法 巾340 cm高290 cm



城山周辺部



全体図 4 枚 1 組

地図紙袋

9 旧三春縮図 明治4年 袋

里程表

2 4 (従三春各地里程表) 墨 1 1 頁 諸国都市陣屋海岸まで

分間帳

6 9 明治3年4月改 三春八方道分間 7 6 頁

口遠より裏町通り御免町福聚寺門前分間野帳 4月5日

3 7 閏10月4日中町分見帳 絵図方 2冊之内北側 80頁 屋敷毎測量記録

三春城下町研究の基本資料

7 0 明治3年新町分見帳 閏10月29日 絵図方 178頁

明治3年新町西側改帳 11月7日 絵図方

屋敷毎の測量記録 三春城下町研究の基本資料 37中町と一対

7 1 明治3年三春周堺分間書綴 4月改 絵図方 64頁

三春町内詳細測量記録 三春城下町研究の基本資料

7 4 新町御黒門ヨリ道向未 三春測量資料 6頁 76の一部か

7 6 明治3年10月2日組地歩数改野帳 新町口 絵図方 76頁

7 5 (明治3年中町分間帳) 表紙を欠くため表題不明なるも、用紙は新町中

町分間帳と一致する、中町の分冊又は他の5町か。2-14屋敷はあり、1のみ欠 個別屋敷の測量記録 28頁

家並図

- 214 中町西側家並図 2 x 8折 墨
- 209 荒町 4分1間 袋 6図
 - (家並図) 墨 1 x 1折
 - (測量図) 墨 小型図2枚
- 荒町分反故 家並図 墨 1 x 1折
- 荒町トウチウ町牢ヤ裏迄 家並図 墨 1 x 2折
- 荒町中側、東側 家並図 1 x 6折 墨
- 荒町西側 家並図 2 x 7折 墨

邸宅地実測図

- 208 (三春城下町役宅測量図) 図帳 武家屋敷52図敷地形形状各辺寸法
 - 2分1間 2寸10間 1分1間各図縮尺異なる
- 68 明治3年8月3日演武場調練場改 并 藩庁御門ヨリ里程 縮図方
 - 追手御門ヨリ諸方道程、大町制札ヨリ諸方路程

8 あとがき

三春県絵図方の絵図の中心は600余の野帳、村絵図であるが、今回は三春町と三春城に限定して、紹介した。これらの絵図は初公開となる。ただ、三春町正図は3m四方もあり、撮影もままならないため、以前に、撮影した写真を掲載した。明治初期の測量家佐久間續の業績について顕彰されることを願いたい。